釧路市立北中学校「学校だより」

北　魂

令和７年（2025年）３月10日発行　VOL 50

大人はやりたいことを諦めている

釧路市立北中学校長　冨　田　直　樹

先週の木曜日、公立高等学校の一般入試を終えた３学年が「やり切った」という表情で登校してきました。15年間の人生で最も大きい仕事を終えた３学年の生徒たち、本当にお疲れ様でした。卒業式に向けた準備も始まりました。残り少ない中学校生活の一日一日を大切に過ごしてほしいと思います。１学年では二者面談、２学年では三者面談、特別支援学級では４月から入学してくる生徒の保護者に説明会が行われています。新年度に向けて保護者の皆さんとよい話し合いができればと思います。

さて、国語科の原田教諭と山本教諭から１・２学年の国語の授業に招待していただきました。生徒たちは自分が選んだテーマについて、自分の考えをまとめ発表します。テーマは、挨拶の意味、睡眠の質、時間の使い方、日常生活の改善、戦争、闇バイト、多様性、SDGs、物価高、釧路市の活性化など、多岐にわたりました。そんな中で、１学年のある男子生徒が「大人はやりたいことを諦めている」という内容の主張を発表しました。原稿はあるものの、ほとんど見ることなく、自分の言葉で自分の主張を友達や教師に伝えようとしていました。その主張する姿勢とともに、主張内容がとても印象に残りました。その生徒の周りにいる大人の中には、私たち教職員も含まれます。私たちの姿を見て、その生徒が「大人はやりたいことを諦めている」と感じているのであれば、何とかしなくてはなりません。私たち教職員はもとより学校全体の状況を振り返ってみる必要がありそうです。

学校に浸透している前例踏襲主義と同調圧力は、なかなか手強いものです。それらは、目的・ビジョンを共通理解することではなく、手段をそろえることにその力が働きがちなので、注意が必要だと思います。最近、「多様性の時代」と口でも言いますし、文章にも書きます。しかし、実際は「ここは学校だから」「今までもこれでやってきたから」としてしまうことがあります。学校は、今の時代と社会に適合しているのか考えてみる必要があると思います。成長している企業の経営者は、「業界でみんなやっているから」「自分はこう思っているから、他のところもそうだろう」などと考えて会社を経営していないと思います。毎月、毎年見直しをして、ときに大胆に経営方針を転換させますし、何より人を大切に育てます。

人を育てるためには、若い頃の学びを使い回してしのげる時代ではなくなりました。自分も勉強しなければなりません。目的・理念を浸透させるためには、丁寧な説明と対話が必須です。そして、学校は理念を浸透させ、そこから最適解をつくり上げていく組織でなくてはならないのだと思います。

学校は学びをつくる場所であり人が育つ場所です。何のために、誰のために学校はあるのでしょうか。「どっちを向いて仕事をしてるんだよ」と生徒に言われないように、前例や忖度を捨てて毎日アップデートしていく、そんな姿を生徒たちに見せていくことが大切だと思います。そこから生徒たちの学びのゲートウェイが開くのではないかと思います。